

2024年度学校推薦型選抜・総合型選抜小論文過去問

学校推薦型選抜・総合型選抜A日程第二次選抜 [工学部以外の学部(2023年11月18日実施)]

以下の文を読み、問い合わせに答えなさい。

問1 文章の内容を100字以内に要約しなさい。

問2 「家族絶対主義的な道徳訓」について、あなたの考えを700字以内で述べなさい。

家族で食べたいけれども両親ともに夜遅くまで働いていて両親と食べられない子どもたちが夜、テレビを観ながら電子レンジで温めた夕食をつくることが、「子どもたちがかわいそう」という感情を伴いつつ問題視されてきた。しかしこのような物言いのときに注意すべきなのは、人びとの批判の矛先(ほこさき)が、両親、とくに母親に向かい、親を家庭に帰さない職場や、遅くまで働かざるをえないほど法外な賃金の低さを許す社会にはなかなか向かないことである。

「家族は、社会の自然かつ基礎的な単位として、尊重される。家族は、互いに助け合わなければならない」というような家族絶対主義的な道徳訓が求められるのも、こうした孤食の問題と無関係ではない。2012年4月27日、(中略)自由民主党が発表した『日本国憲法改正草案』第24条にこの文言が書き加えられたが、さらに孤食禁止法のような法律が制定されて子どもにひとりでご飯を食べさせたら罰則が与えられることになれば、孤食も解消されるかもしれない。けれども、それだけでは孤食の問題の本質はなんら解決されない。孤食の原因はますます両親に、とりわけ母親に向かうようになる。家族がバラバラだから子どもの心に闇がもたらされる、とか、一家団欒(だんらん)は子どもの心に安定をもたらす、とかいうような学者の「分析」がますます効力を持ち、勝手に「原因」に位置づけられ

れる母親は、とくにシングルマザーは家族の生活のために必死に働いているにもかかわらず「憲法違反」と断罪される日が来るかもしれない。孤立無援の家のなかで乳幼児が亡くなる事件があるといつも批判は社会のあり方ではなく、母親に向かいがちだ。ニュースを聞いてこみ上げるものが、家族絶対主義によって、個人への批判に落ち着いてしまう社会こそ、問われなくてはならないのに。

このような状況が放置されてきたのは、(中略)いま日本で票を集めている政治家たちの家族観が懐古的だから、だけではない。むしろ、政治家たちの懐古的な家族観は時代の先端と相性がいい。つまり、小さな政府は、社会保障費を削るためにも家族のケア力に任せたくてまらないのである。

(中略)自由民主党改憲草案第24条の新設の項目にある家族同士が助け合わなければならぬ「義務」をもつとも歓迎するのは、(中略)非正規雇用を推進する企業である。「家族は助け合わなければならぬ」という道徳が法律になれば、論理的には、企業に非正規的に雇われている労働者がたとえ賃金が低くとも、たとえ福利厚生が薄弱にもかかわらず正規雇用者よりも能力が高いがゆえに仕事が集中しても、それによって生じる問題を憲法の名の下に家族に責任転嫁できるようになるからである。家族を国家の中枢に据えるという道徳家たちの野望とはうらはらに、家族は経済成長の補助組織に成り下がる。(中略)家族は、その独特的の利点も無視され、ただ、経済活動がもたらす問題のいわば「しづ寄せ引き受け装置」として期待されることになるだろう。

出典:藤原辰史(2020)『縁食論—孤食と共食のあいだ』、ミシマ社、pp.14-16より一部抜粋して使用

学校推薦型選抜・総合型選抜A日程第二次選抜 [工学部以外の学部(2023年11月19日実施)]

以下の文を読み、問い合わせに答えなさい。

問1 文章の内容を100字以内に要約しなさい。

問2 あなたの周りにある「ラベル」を例にとり、そのラベルの功と罪を700字以内で述べなさい。

ラベルは、社会問題や個人の問題を明らかにする点では有効に作用することができます。例えば、男性が偉そうに説教する事象に「マンスプレイニング」という言葉が使われるようになりました。女性をはじめ多くの人がさんざんやられてきたけれど一体なんのか分からなかったものが、ラベルが貼られたことで「ああ、そういうことか」と腑(ふ)に落ちる。他にも「ホモソーシャル」など、男社会のありようを明らかにするラベルが近年広がったことで、問題に輪郭が与えられました。

しかし、世の中に多いのは、ラベルを貼って「切り離す」という排除が目的のものでしょう。中でも「若者」は繰り返し、そういう目に遭ってきました。

若者論は古くからありますが、特に1990年代以降、若者を蔑視し、上の世代の責任を回避する道具として使われてきました。「若者の不可解な行動」という問題が設定され、「自分たちとは違う」と社会から切り離す。「倍速視聴」などの消費行動に関する論評もそうです。そして「自分たちに責任はない」と上の世代がつくった社会の問題にはせず、個人の責任について、逆に若い世代が社会問題の要因であるかのように扱われたりします。

例えば2004年、学生ではないのに働かず、働こうともしない若者

に「ニート」というラベルが与えられました。英国で生まれた時には、「社会的排除」という普遍的な問題として使われた言葉でした。しかし日本に輸入されると、「甘え」や「劣化」をバッシングする文脈ばかりになります。現象を社会と照らし合わせ、社会の構造的な問題を問うのではなく、個人の心構えや態度の問題にされてしましました。

「草食男子」「ゆとり世代」「右傾化する若者」などのさまざまなラベルは、例えば「ゆとり教育を受けた若者のせいで企業が苦労している」とか、「権力時従順な若者のせいで自民党が勝つ」とか、若い世代に責任を押しつけるために今も使われています。それらを広めたのは、マーケッター、文化人、メディア、政治家などさまざまな階層の人たちですが、根本には、社会が若者に向ける差別的な視線が存在します。

重要なのは、若者を意識しすぎないことでしょう。「若者にこれがウケる」とか「今の若者はこれだ」というマーケティングのような若者分析をやめて、世代を取り扱って社会問題を語る。若者を切り離すのではなく、一人ひとりが、同じ自分の社会にある問題だと認識することが必要だと感じています。

*出題者注:同性同士の社会的なつながり。特に男性同士の緊密な結びつきや関係性を否定的に述べる際に用いられる。

出典:後藤和智(2022)「若者の排除狙う差別の目」、『朝日新聞(朝刊)』2022年4月19日、p.13より一部改変して使用(<https://xsearch.asahi.com/kiji/image/?1693458381480>)

2024年度学校推薦型選抜・総合型選抜小論文過去問

学校推薦型選抜・総合型選抜A日程第二次選抜

工学部

機械知能工学科

次の問題文について、600字以内で答えなさい。

我々の暮らしに役立つ機械や機器を人工知能(AI)に提案させ、提案結果を機械や機器の開発の参考とする試みがあります。この試みに対するあなたの意見を述べなさい。

環境建設工学科

次の問題文について、600字以内で答えなさい。

2023年現在、我が国の建設業（土木・建築）は、戦後のベビーブーマーと言われる世代が既に大量退職し、空前の人手不足が続いている。建設会社各社では、少しでも優秀な学生を早期に獲得したいと考え、給与水準の向上や福利厚生の充実のほか、「働き方改革加速化プログラム」に対応するよう完全週休2日制を目指して努力しているところです。

一方、建設業や運送業で取り沙汰されている「2024年問題」と呼ばれるものがあります。簡単に言うと、2024年より、建設業や運送業などで残業が厳しく制限され、違反した場合には会社に対して罰則が与えられることとなるため、2024年以降は業務が滞ったり、工事期間が延びたりすることが懸念されている、というものです。

つまり、ただでさえ人手不足という状況に追い打ちをかけるように、2024年問題によって現有の人的リソースにも制限が加えられる、という状況が予想されています。

以上のような実態を踏まえ、今後の建設業の在り方について、あなたが考えるところを述べなさい。我が国の建設業全体の向かうべき方向性や、国の行政の在り方、また各建設会社の企業としての対応方法など、いずれの視点でも構いません。

電気電子工学科

次の問題文について、600字以内で答えなさい。

現在の世界のエネルギー事情について概説し、「電気電子工学科（電力・制御系、情報・通信系、電子・材料系）」が関連する事柄を2つ以上挙げ、今後どのような方向で対応することが望ましいか、あなたの意見を述べなさい。

総合型選抜B日程第二次選抜・TG推薦・資格取得による推薦B日程【工学部以外の学部】

以下の文を読み、問い合わせに答えなさい。

問1 文章の内容を100字以内に要約しなさい。

問2 日常の中で私たちが「防波堤」を築きがちになるのはなぜなのか、具体例をあげながらあなたの意見を700字以内で述べなさい。

人に「触れる」ことについて気になっているのは、心理的な接触が難しくなっていることです。相手と自分の間に防波堤のように安全な線を引く意識が高まり、互いに調整して妥協点を探りにくくなっていると感じます。

コロナ禍はその大きな要因だと思います。体に接触すれば相手の緊張や嫌がっていることがわかり、その感覚を手がかりにこちらの出方を調整できます。しかし体の接触が減った上に、マスクで相手の考え方や感情がわかりません。「この感じでいこう」と一緒に場を作っていく取り合いが難しくなりました。

コロナだけではなく、多様性やジェンダーの問題など、様々な社会的な意識の高まりも、「触れる」ことが難しくなった要因だと思います。暴力をなくしハラスメントに気をつけるべきなのは大前提ですが、人を傷つけることに対してあまりに敏感にならないでしょうか。

例えば芸術の授業で学生が作品を発表する時、前口上が長いんです。「刺激が強いかもしれない要素が入っていて、傷つけてしまうかもしれないで気をつけてください」と。たしかに人の心を動かすことは傷つけることと紙一重ですが、すべてを暴力とくくってしまうと美術作品は成立しません。

いま、暴力への感受性と同時に、ケアへの関心も高まっています。このことには矛盾を感じます。ケアとは人の領域に介入することなので、暴力に敏感になり介入が暴力とみなされたら、ケアができなくなります。例えば困っている人に手を差し伸べようとした時の、ためらいが増えた気がするんです。みんなが透明なアクリル板で安全な領域の中に仕切られたような状態だと、ケアの手が入れません。私は障害を研究していますが、目の見えない知人たちから、コロナによって街で声をかけてもらいにくくなったという話はよく聞きます。

介入してみてうまくいかなかったら調整する、ということが許されなくなっている。うまくいかない可能性があるのならやめときましょうということなれか主義です。

障害のある人は、人の力を使いながら生きていく専門家です。防波堤を設けず、人を引き込んだり自分が出ていったりする中に面白さ、豊かさがある。障害のある人とケアをする人の間の人間関係は触覚がベースです。とりあえず触ったところから交渉を始めようという世界で、そこに可能性を感じます。防波堤を設定する生き方は、障害や病気がないからできるもので、期間限定の特殊な状況です。生まれる時、死んでいく時、体は接触を求める。今は障害や病気がなくてもいつかは、うまく境界をなくさなくてはいけない体になっていくのです。

出典:伊藤亜紗(2023)「傷つけるかも 過敏な社会」、『朝日新聞(朝刊)』2023年6月6日、p.15より
(<https://xsearch.asahi.com/kiji/image/?1693463105528>)

総合型選抜B日程第二次選抜・TG推薦

工学部

機械知能工学科

次の問題文について、600字以内で答えなさい。

近年、ものづくりを手作業で行う職人の不足が問題視されています。そこで職人の動作を計測装置で取得、分析し、職人の代わりとなる機械またはロボットを開発し、職人不足を解消するという考えがあります。この考えに対するあなたの意見を述べなさい。

環境建設工学科

次の問題文について、600字以内で答えなさい。

昨今建設資材の価格が高騰を続けており、同じ大きさの建物や土木構造物をつくるための建設費が、4~5年前に比べて3割ほど上昇している、という関係者からの声があります。

公共工事では、予定されている建物や土木構造物の大きさや仕様、構造をもとに、おおよその工事予定価格を想定した上で、建設費の見積額を競わせる「入札方式」が広く実施されていますが、上記のような状況から、どの企業も予定価格内で工事を実施することができず、「不調」となるケースが続出しており、深刻な問題になっています。

建設資材の高騰の理由として、一つには、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に端を発した、資材のサプライチェーン※途絶や、ロシア-ウクライナ紛争、イスラエルにおける紛争などに代表される、海外情勢の不安定化という問題があります。原材料の多くを海外からの輸入に頼っている我が国の産業は、海外からの原材料・資材・製品の輸入が何らかの理由で滞ると、非常に大きなダメージを被り入手困難となることから、それらの価格が上昇しやすいという構造的な問題を抱えています。

二つ目の理由としては、人手不足に伴う人件費の上昇です。建設業界では現在恒常的な人材の不足に悩まされており、旺盛な建設需要に対して対応できていません。需要と供給の関係から、人件費が高止まりするという状況が続いているのです。

仮にあなたが建設会社の社長であるとした場合、こうした建設費の高騰という状況に対応するために、あなたには何ができるか、また、社会に対して何を期待するか、それぞれについて考えを述べなさい。

※製品の原材料・部品の調達から販売に至るまでの一連の流れのこと。

電気電子工学科

次の問題文について、600字以内で答えなさい。

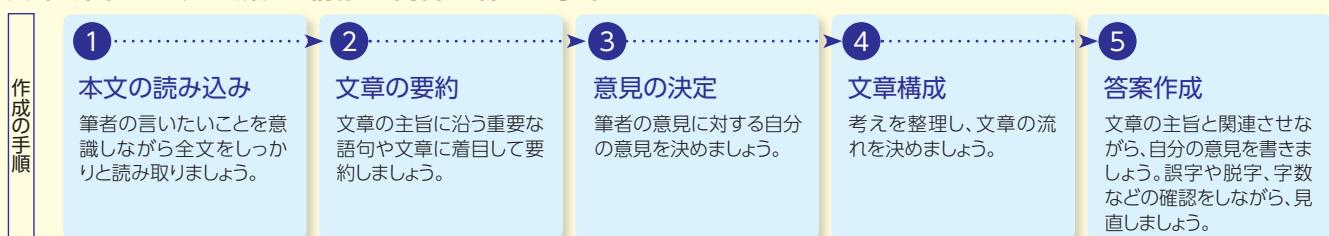
持続可能な社会を目指し、ガソリン車から電気自動車への移行が急務であると言われているが、日本および欧州における10年後の自動車の普及について予測せよ。また、これらに関してあなたが想定する電気電子工学に関連するキーワードを1つ以上挙げて説明し、あなたが今後どのように対応することが望ましいか述べなさい。

学校推薦型選抜・総合型選抜小論文作成のポイント

本学の小論文は、文・経済・経営・法・地域総合・情報・人間科・国際の各学部と工学部で問題形式が異なります。次の手順のように順序立てて書いてみましょう。

文・経済・経営・法・地域総合・情報・人間科・国際の各学部

○文章を読み、要約と意見を論述する形式(資料読解型小論文)



工学部

○課題(テーマ)について意見を論述する形式(課題(テーマ)型小論文)

